

2016年度

慶應義塾大学入学試験問題

経済学部

数学

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり、裏返したりしてはいけません。
2. 数学の問題冊子は全部で12ページです。問題は3, 4, 5, 8, 9, 10ページに印刷してあります。試験開始の合図とともにすべてのページが揃っているか確認してください。ページが抜けていたり重複するページがあれば、直ちに監督者に申し出てください。
3. 解答用紙は、解答用紙A（マークシート）が1枚と、解答用紙Bが1枚です。問題の[1]から[3]は解答用紙A（マークシート）に、問題の[4]から[6]は解答用紙Bに解答してください。
4. 受験番号と氏名を、解答用紙A（マークシート）および解答用紙Bのそれぞれ所定の欄に必ず記入してください。さらに、解答用紙A（マークシート）には受験番号を忘れずにマークしてください。
5. 解答用紙A（マークシート）への記入に先立って、解答用紙A（マークシート）に記載された注意事項を読んでください。また、試験開始の合図があった後、問題冊子の2ページ目に記載された「解答用紙A（マークシート）の記入に関する注意事項」を必ず読んでください。
6. 問題冊子の余白および6, 7, 11, 12ページは、計算および下書きに用いてもかまいません。ただし、1ページ目には何も書いてはいけません。
7. 解答用紙Bの余白および裏面には何も書いてはいけません。
8. 数学の問題のうち、問題の[1]から[3]が最初に採点されます。問題の[4]から[6]は、数学の最初に採点される問題と英語の最初に採点される問題の得点が一定点に達した受験生についてのみ、採点されます。
9. 問題冊子は試験終了後必ず持ち帰ってください。

解答用紙 A (マークシート) の記入に関する注意事項

1. 問題の [1] から [3] の解答は、解答用紙 A (マークシート) の解答欄にマークしてください。

[例]

(11)	(12)
------	------

 と表示のある問いに対して、「34」と解答する場合は、右の例のように解答欄 (11) の 3 と解答欄 (12) の 4 にマークしてください。

なお、解答欄にある - はマイナスの符号 - を意味します。

(11)	(12)
0	0
1	1
2	2
<input checked="" type="radio"/>	3
4	<input checked="" type="radio"/>
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
<input type="radio"/> -	<input type="radio"/> -

2. 解答欄 (1), (2), ... の一つ一つは、それぞれ 0 から 9 までの数字、またはマイナスの符号 - のいずれか一つに対応します。それらを (1), (2), ... で示された解答欄にマークしてください。

下の例のように、数字は右によせて表示し、マイナスの符号 - は左端に置いてください。空のマスのあれば 0 を補ってください。解答が分数のときは、分母を正で、約分しきった形で解答してください。

[例]

$$3 \longrightarrow \begin{array}{|c|c|} \hline 0 & 3 \\ \hline \end{array}$$

$$0 \longrightarrow \begin{array}{|c|c|} \hline 0 & 0 \\ \hline \end{array}$$

$$3 \longrightarrow \frac{3}{1} \longrightarrow \begin{array}{|c|c|} \hline 0 & 3 \\ \hline 0 & 1 \\ \hline \end{array}$$

$$-x \longrightarrow (-1)x \longrightarrow \begin{array}{|c|c|} \hline - & 1 \\ \hline \end{array} x$$

$$-\frac{4}{6} \longrightarrow \frac{-2}{3} \longrightarrow \begin{array}{|c|c|} \hline - & 2 \\ \hline 0 & 3 \\ \hline \end{array}$$

[1] 中心の座標が $(1, 1)$, 半径が $2\sqrt{2}$ である座標平面上の円を C とする. C 上の点 $P(x, y)$ に対して $t = x + y$ とおく.

(1) $P(x, y)$ が C 上を動くとき t が取り得る値の範囲は $\boxed{(1)}\boxed{(2)} \leq t \leq \boxed{(3)}\boxed{(4)}$ である. 特に $t = 0$ のとき, $x^2 + y^2 = \boxed{(5)}$ が成り立つ.

(2) $P(x, y)$ が C 上を動くとき, xy の値は $t = \boxed{(6)}$ のとき最小値 $\frac{\boxed{(7)}\boxed{(8)}}{\boxed{(9)}}$ をとる.

(3) $P(x, y)$ が C 上を動くとき, $x^3 + y^3$ の値は $t = \boxed{(10)} + \sqrt{\boxed{(11)}\boxed{(12)}}$ のとき最大になる.

[2] 以下の条件で定められる数列 $\{a_n\}$ がある.

$$a_1 = \frac{1}{10}, \quad a_{n+1} = \frac{1}{100} a_n + \frac{1}{10} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (1) $\{a_n\}$ の階差数列 $\{b_n\}$ を $b_n = a_{n+1} - a_n$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) で定める. $\{b_n\}$ は等比数列で, 初項を $\frac{1}{10^p}$, 公比を $\frac{1}{10^q}$ とおくと, $p = \boxed{(13)}$, $q = \boxed{(14)}$ となる. ゆえに, $\{b_n\}$ の第 n 項を

$$b_n = \frac{1}{10^{r+n+s}} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

とおくと, $r = \boxed{(15)}$, $s = \boxed{(16)}$ となる. さらに, $\{a_n\}$ の第 n 項は,

$$a_n = a_1 + \sum_{k=\boxed{(17)}}^{n+\boxed{(18)}\boxed{(19)}} b_k = \frac{\frac{1}{10^t} \left(1 - \frac{1}{10^{un}}\right)}{1 - \frac{1}{10^v}} \quad (n = 2, 3, 4, \dots)$$

と求められる. ここで, $t = \boxed{(20)}$, $u = \boxed{(21)}$, $v = \boxed{(22)}$ である.

- (2) $S_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{10^{2k} a_k a_{k+1}}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) とおく. 関係式

$$\frac{b_k}{a_k a_{k+1}} = \frac{\boxed{(23)}\boxed{(24)}}{a_k} + \frac{\boxed{(25)}\boxed{(26)}}{a_{k+1}} \quad (k = 1, 2, 3, \dots)$$

を用いて計算すると,

$$S_n = \frac{10^w \left(1 - \frac{1}{10^{xn}}\right)}{1 - \frac{1}{10^{yn+z}}}$$

となる. ここで, $w = \boxed{(27)}$, $x = \boxed{(28)}$, $y = \boxed{(29)}$, $z = \boxed{(30)}$ である.

- (3) $(100^{n+1} - 1) S_n$ は $\boxed{(31)} n + \boxed{(32)}\boxed{(33)}$ 桁の整数になる.

- [3] ある野生動物を 10 匹捕獲し、0 から 9 の番号で区別して体長と体重を記録したところ以下の表のようになった。体長と体重の単位は省略する。

番号	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
体長	60	66	52	69	54	72	74	60	58	61
体重	5.5	5.7	5.9	5.9	6.0	6.2	6.2	6.4	6.5	6.7

- (1) この 10 匹の体長の最小値は $\boxed{(34)}\boxed{(35)}$ 、最大値は $\boxed{(36)}\boxed{(37)}$ である。
- (2) この 10 匹は 5 匹ずつ A と B の 2 種類に分類できる。1 つの種類の中では体長と体重は正の相関を持つ。10 匹の体長と体重の相関係数は 0.05 以下だが、種類 A の 5 匹に限れば 0.95 以上であり、種類 B の 5 匹も 0.95 以上である。また、番号 2 の個体は種類 B である。このとき、種類 A の 5 匹の番号は小さいほうから順に $\boxed{(38)}$ 、 $\boxed{(39)}$ 、 $\boxed{(40)}$ 、 $\boxed{(41)}$ 、 $\boxed{(42)}$ であり、その 5 匹の体長の平均値は $\boxed{(43)}\boxed{(44)}.\boxed{(45)}$ となる。
- (3) 10 匹のうち体長の大きいほうから 5 匹の体長の平均値は $\boxed{(46)}\boxed{(47)}.\boxed{(48)}$ である。(2) で求めた平均値と異なるのは、体長の大きい 5 匹のうち番号 $\boxed{(49)}$ の個体が種類 B だからである。
- (4) (2) で求めた種類 A の 5 匹の体重の偏差と体長の偏差の積の和は 6.6、体重の偏差の 2 乗の和の平方根は小数第 3 位を四捨五入すると 0.62、体長の偏差の 2 乗の和の平方根は小数第 1 位を四捨五入すると $\boxed{(50)}\boxed{(51)}$ である。

計 算 用 紙

計 算 用 紙

[4] t を正の実数とし, x の 2 次方程式

$$x^2 - 2\{(\log_2 t)^2 + 1\}x + 6(\log_2 t)^2 + 1 = 0$$

を考える.

(1) 上の 2 次方程式の実数解が存在しない t の範囲を求めよ.

上の方程式が実数解を持つ t に対して, 実数解がただ 1 つのときはその値を $f(t)$ と定め, 実数解が 2 つあるときは小さいほうの値を $f(t)$ と定める.

(2) 上の 2 次方程式の実数解がただ 1 つ存在する t の集合を A とする. $t \in A$ のとき $f(t)$ の最小値と最大値を求めよ.

(3) t が $1 \leq \log_4 t \leq \frac{3}{2}$ を満たす範囲を動くとき, $f(t)$ の最小値を求めよ.

[5] 1 辺の長さが $\sqrt{2}$ の正方形 ABCD を底面とし、4 つの正三角形を側面とする正四角錐 O-ABCD がある。OA と OC を 4 : 1 に内分する点をそれぞれ P と R、正の実数 r に対して OB を 1 : r に内分する点を Q とする。

(1) 内積 $\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{QR}$ と $\overrightarrow{PR} \cdot \overrightarrow{OQ}$ を計算せよ。答が r の有理式になる場合は、1 つの既約分数式で解答せよ。

(2) 線分 PR の中点を M とする。QM と OD が平行になる r を求めよ。

(3) QM と OD が平行なとき、3 点 P, Q, R を通る平面 α で正四角錐 O-ABCD を 2 つの多面体に切り分ける。このとき、 α による切り口の図形の面積、および、切り分けたうち頂点 O を含む多面体の体積を求めよ。

[6] a を 0 でない実数とする. 等式

$$f(x) = \frac{3}{a}x^2 - \frac{1}{a}x + \left\{ \int_0^2 f(t) dt \right\}^2$$

を満たす関数 $f(x)$ を考える.

- (1) $a = -1$ のとき, この等式を満たす $f(x)$ は 2 つある. それらを求めよ.
- (2) この等式を満たす $f(x)$ がただ 1 つであるとき, a の値を求めよ.
- (3) b を正の実数とする. 定積分 $\int_0^b \{f(x) - f(b)\} dx$ の値が a によらないとき, b の値を求めよ.
- (4) a と b を, それぞれ(2) と(3) で求めた値とするとき, 定積分 $\int_b^2 f(x) dx$ を求めよ.

計 算 用 紙

計 算 用 紙